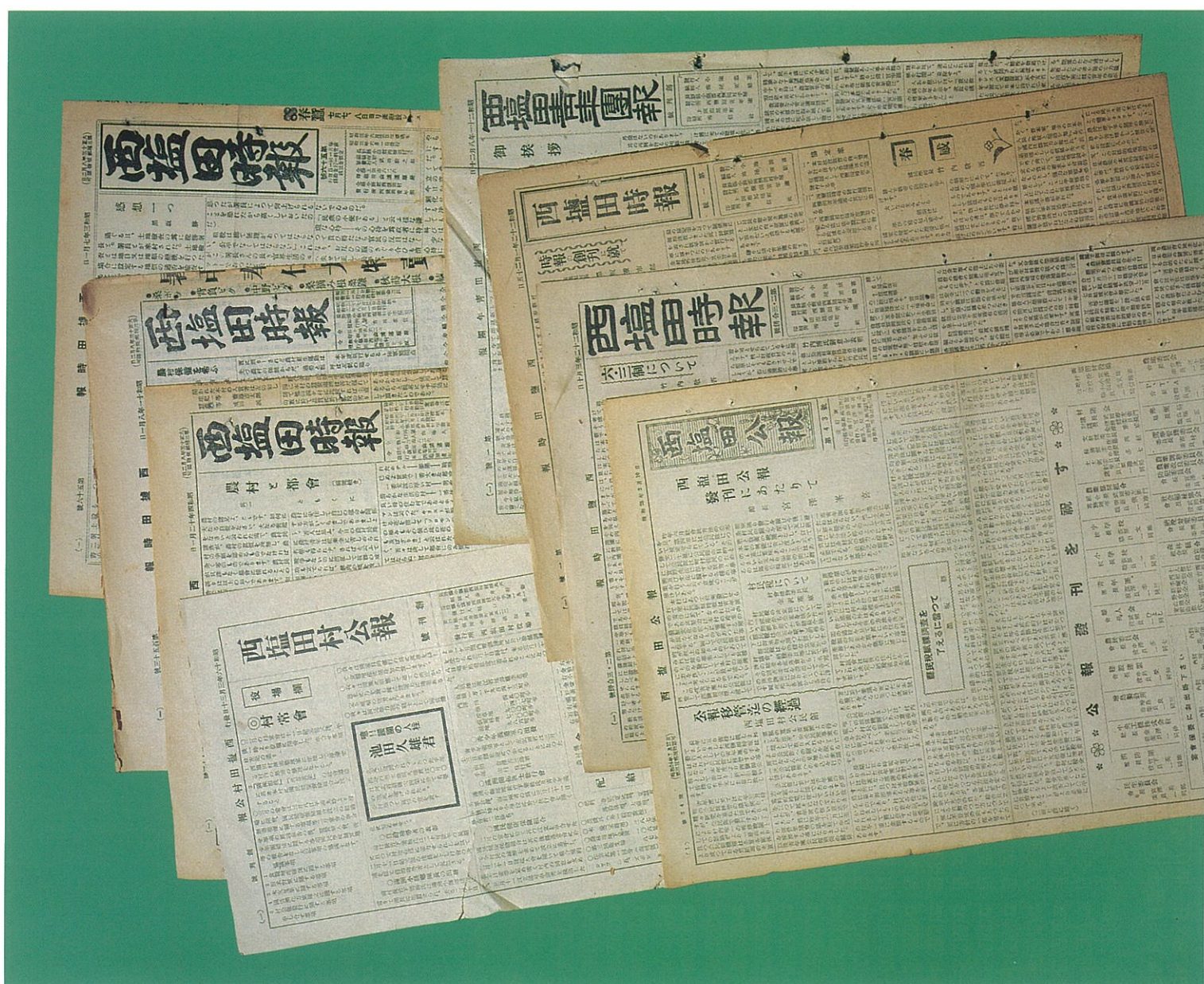




題字の変遷

創刊時代の題字は表紙、本扉に掲載

時報復刻刊行にあたり

明治二十二年、市町村制施行にあたり、当時の手塚、山田、野倉、前山、新町及び十人の六ヶ村が一つになり、西塩田村が誕生しました。この伝統有る西塩田村は、その後合併により塩田町へ、上田市へと変わり、今、『西塩田』の名を冠するものは、西塩田小学校、西塩田保育園、塩田農協西塩田支所、西塩田郵便局、西塩田駐在所など僅かな数となってしまいました。

この緑豊かな地で生まれ育った青年達の情熱によって、塩田の他地区に先駆けて、大正十二年七月「西塩田時報」が創刊の産声を挙げました。「西塩田時報」「西塩田公報」は村の重要な報道機関であり、意見発表の場であり、その時代を反映してきたかけがえのない記録でありましたが、昭和三十一年塩田町の発足と共にその使命を終了しました。

静かな田園地帯であったこの西塩田も、歴史的文化財が世の中の脚光を浴び、「信州の鎌倉」の呼称の基に全国から注目される地域に変わってきました。

この変化の激しいとき、以前から村の貴重な財産である「西塩田時報」「西塩田公報」を復刻刊行したいと言う声が多く、何度か企画されましたがその機が熟さず現在に至りました。

平成元年、西塩田地区振興会が結成され、その事業の一つとして「西塩田時報」縮刷版の発行が計画され、ここに永年にわたって先人の残された大切な資料を一巻に集めて発刊する運びとなりました。

温故知新 今迄の西塩田の動きを知り、今後の方向を見極める一助になればと考えます。

平成三年十月

西塩田地区振興会

会長 樋口 實